様　式　Ｆ－１９－２

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年 １０ 月 １８ 日現在

機関番号：３４２０２
研究種目：国際共同研究加速基金（国際共同研究強化）
研究期間：2018～2023
課題番号：１７ＫＫ００３８

研究課題名（和文）移民の身体ポリティクス：インド舞踊のグローバル化とエージェンシー

研究課題名（英文）The Body Politics of Migration: Globalization of Indian Dance and Agencies

研究代表者
竹村　嘉晃（TAKEMURA, YOSHIAKI）

平安女学院大学・国際観光学部・准教授

研究者番号：８０５１７０４５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　11,800,000円
渡航期間：　15ヶ月

研究成果の概要（和文）：本研究は、シンガポールのインド系コミュニティを事例に、グローバル化が浸透する現代社会において伝統的な身体文化をめぐるポリティクスと移民社会の変容について考察した。本研究の大きな成果は、海外研究協力者との連携に加え、国際学会での研究発表の場を通じて構築した国際的な研究ネットワークを活用し、インド舞踊のグローバルな受容動向に関する個別の事例をインド・東南アジア・欧米諸国の多国間で有機的に結びつけ、ホスト社会やグローバルな政治・市場と戦略的に関わりながら、実践者たちのグローバルな活動実態と移民コミュニティの再編、身体文化をめぐる新しい価値付けや共同関係の実態を浮かび上がらせることができたことである。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究は、国際学会・シンポジウムでの研究発表を通じて国際的な研究ネットワークを構築しただけでなく、本研究をグローバルな学術ネットワークのなかに位置づけて議論を展開できたことに学術的意義がある。また関連分野で優れた研究業績をもつ海外の研究者を日本に招聘した国際ワークショップや国際シンポジウムを開催し、その議論を広く日本の音楽・芸能研究に携わる研究者たちに公開できたことは大きな成果の一つといえる。また本研究は、従来の二国間の研究協力に偏重しがちだった手法から脱却し、欧米諸国や東南アジアの研究機関をも含めた国際的な学術ネットワークにおける日本のプレゼンスを高めることに少なからず貢献した。

研究成果の概要（英文）：This study examined the politics of traditional physical culture and trends in immigrant societies in the case of the Indian community in Singapore, in a contemporary society where globalization is pervasive. The major outcome of this study is that, in addition to collaborating with overseas research collaborators, we have utilized the international research network we have established through research presentations at international conferences to organically link individual cases of global reception trends of Indian dance across India, Southeast Asia, and Western countries, and to examine the host society and The project has also been able to identify new cooperative relationships that reorganize immigrant communities and physical culture while strategically engaging with host societies, global politics, and markets.

研究分野：文化人類学、舞踊人類学、南アジア地域研究

キーワード：インド舞踊　グローバリゼーション　移民　シンガポール　文化政策　ポリティクス

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｆ－１９－２

１．研究開始当初の背景

2000 年以降、急速に進展したグローバル化は、インド社会に様々な影響を与えただけでなく、インドの音楽・舞踊文化を取り巻く環境にも大きな変容をもたらした。その変化とは、上演形態・演目・楽器・振り付け・衣装などの技術的・物質的側面だけでなく、それらを支えてきた経済的基盤や実演家とパトロンとの間の社会関係、欧米諸国への人の流動化に伴う実演家たちのグローバルな演奏機会の増加、さらにはインターネットなどのメディア技術の発展・普及によるオンライン・レッスンのグローバルな浸透や YouTube などにおける表象にも如実に表れている。

インドの音楽・舞踊文化に関する従来の研究は、音楽・舞踊を地域社会と明確に分離することなく、伝統に根ざす文化実践としてその歴史や芸態を厚く記述してきた（cf. Kothari 2000; Neuman 1980; Wade 1983）。しかしながら、今日のインドの音楽・舞踊文化は、国内はもとよりインド系ディアスポラを中心にグローバルに受容され、また演じる側と様々な資本とが結びつくことによって多様な形で商品化・消費され、かつインドに環流している。同時に、グローバルな空間においては、受容をめぐるポリティックスを通じてラベル化され、新たな意味づけや宗教実践が思わぬ形で生起するエージェンシーにもなっている。

このような状況に関して、グローバル化の影響を考慮した近年のインド芸能研究（cf. Chakravorty 2009; Chakaravorty & Gupta 2010; Charsley & Kadekar 2006）は、形式の多様化や環境の変化、新興中間層による消費については論じるものの、グローバルな隆盛を支える多様なネットワークや新たに刻印される価値づけの影響を看過している。また当該地域の移民コミュニティを分析対象とはするものの、欧米のインド人社会で実践されている芸能の変化に関心が偏り（cf. Farrel 2005; Thobani 2017）、「人の移動」を中心軸にした地域ネットワークの変化やメガシティからグローバル・ネットワークへと拡がっている地平が捉えられていない。それゆえ、インド人移民コミュニティの現代的な動態と彼らのグローバルな連動にまで問題設定を拡大することが必要不可欠である。また、インド舞踊の継承を通じたコミュニティの強化・再編の位相には、ホスト社会との相互交渉を通じたインド系移民たちの身体をめぐるポリティクスが顕在化しており、多様な視点から検証することが求められる。グローバル資本主義の影響による都市中間層の受容動向に関する従来の研究を補完する意味で、メガシティと欧米諸国や東南アジアを往来する実演家たちの実態と新たなネットワークについての実証的な研究が不可欠であり、さらに両者を総合した研究へと発展させることが求められる。

２．研究の目的

大規模な移住は、自発的であれ強制的であれ、グローバル化が進む現代社会を特徴づける事象の一つである。本研究は、インド人の移民経験と彼らの身体性との関わりをめぐるポリティクスに着目し、その意味世界と複数のエージェンシーについて、インド舞踊のグローバルな受容動態とそこに生起する新たな価値づけや意味の読み込みから総合的に研究するものである。とくに、インド舞踊がトランスナショナルに受容されるなかで、1）ホスト社会との相互交渉や文化政策を通じて〈ナショナル化／南アジア化〉する一方、2）実演家の多国間の移動に伴って循環または〈インドに環流〉し、3）新たな人の流入による影響から〈宗教的空間に再文脈化〉され、4）かつメディアやテクノロジーとの接合を通じて変容あるいは〈新しいジャンルとして展開〉している実態について、インド・欧米諸国・東南アジアの事例を有機的に結びつけながら実証的かつ全体関連的に解明することが本研究の目的である。

３．研究の方法

〈研究方法〉

本研究では、文献研究、参与観察、聞き取り調査をもとに、1）移民・ホスト社会と故国におけるインド舞踊の新たな価値づけ、2）芸術として再構成された古典舞踊が宗教実践として再文脈化され、新たな宗教性を与えられている状況、3）インドの舞踊文化が多発・多方向的に多国間を移動・循環し、新たに生成する社会・人的紐帯とインド発のグローバル化・環流化の生起、4）インド舞踊を取り巻く新たなメディア状況と他ジャンルとの融合を通じた異種混交性、について考察した。またマルチ・サイト民族誌の方法論に依拠し、研究メンバーと協働しながらインド・欧米諸国・東南アジアにおける事例を有機的に結びつけ、全体関連的かつ実証的に分析した。

〈研究組織〉

本研究は次のメンバーからなる研究組織をもとに遂行した。所属・職名・専門分野・役割分担については研究を開始した 2018 年時のものを表記する。

	氏名	所属・職名	専門分野	役割分担
1	竹村嘉晃 （研究代表者）	南アジア地域研究国立民族学博物館拠点・拠	芸能人類学 南アジア地域研究	シンガポールのインド系移民の芸能実践と国

		点研究員		家政策に関する研究
2	寺田吉孝 （研究協力者）	国立民族学博物館学術資源研究開発センター・教授	民族音楽学、インド音楽研究	カナダのインド系移民の芸能
3	Gopalan Ravindran （共同研究者）	マドラス大学ジャーナリズム＆コミュニケーション学部・教授（インド・チェンナイ）	メディア研究、映画研究	インドのポピュラーカルチャーのグローバル化とその影響に関する研究
4	Rajesh Rai （共同研究者）	シンガポール国立大学人文社会科学学部・准教授（シンガポール）	ディアスポラ研究 宗教学	シンガポールのインド系移民と宗教の動態に関する研究
5	Ann R. David （共同研究者）	ローハンプトン大学舞踊学部・教授（イギリス・ロンドン）	舞踊人類学、舞踊民族誌	欧州のインド系移民の宗教・芸能実践に関する研究
6	Hari Krishnan （研究協力者）	ウェスリアン大学舞踊学科・教授（アメリカ・コネチカット）	舞踊研究 ジェンダー・セクシャリティ研究	アメリカのインド系移民におけるジェンダーと芸能に関する研究

〈各年度の実施活動〉

・2018（平成 30）年度

渡航期間：2018 年 11 月-12 月、2019 年 3-4 月（シンガポール）、2018 年 12 月-2019 年 3 月（インド・タミルナードゥ州）

2018 年度は、実演家たちのグローバルなネットワークと彼らの活動状況を把握し、移民社会とつながるエージェンシーの動態についてインドで現地調査を実施した。インドでは共同研究者の Ravindran Gopalan 教授の受け入れのもとで調査を進め、研究遂行上の諸問題などについて助言を得た。またシンガポールでは共同研究者の Rajesh Rai 准教授の受け入れのもと、インド系移民社会とインド舞踊の発展に関する歴史的な経緯について文献調査を行った。とくに独立期の 1960 年代前半に多文化主義を啓蒙する一環として政府が主導した文化イベントの Anenka Ragam Rayattu に着目し、関連資料の収集と出演者へのインタビューを行い、インド舞踊がシンガポールの「ナショナル」なものとして位置づけられていった過程を分析した。

本研究と関連する研究発表を 7 月の国際学会（The 5th Symposium of the ICTM Study Group On Performing Arts of Southeast Asia, Malaysia; Saba）と 10 月の国内学会（日本南アジア学会第 31 回全国大会、金沢）にて行い、参加者からコメントやプロジェクトに関する助言を得た。加えて 2019 年 3 月には Rajesh Rai 准教授と共に企画立案した国際共同シンポジウム（Joint Workshop: South Asian Studies Programme, NUS & JSPS, “Rethinking Development: Networks, Brokers and Devotion”, Singapore）をシンガポール大学で行った。

・2019（令和元）年度

渡航期間：2019 年 6-9、11 月-2020 年 3 月（シンガポール）、2020 年 1 月（インド・チェンナイ）

2019 年度は、シンガポールでインド芸能の発展に貢献した個人のライフヒストリーや独立前後の政治動向と芸能との接点、実演家たちのグローバルなネットワークと海外との共同制作の実態について文献・現地調査を実施した。またインド舞踊のグローバな拡がりに関する実態について、タイ（2019 年 5、7 月）とスリランカ（12 月）で短期調査を行い、ASEAN におけるラーマーヤナの受容動向や国際共同作品の制作過程、バラタナーティヤムの受容・表象をめぐる民族間の軋轢などについて考察した。

4 月には、本研究の基盤となった科研プロジェクト（16K03247）の成果として、共同研究者の Ann R. David 教授や研究協力者の寺田吉孝教授と共に国際ワークショップを東洋音楽学会との合同で開催し、国内の音楽・芸能研究者たちとの意見交換を行った。また国際学会・シンポジウムに積極的に参加し、7 月（The 45th International Council for Traditional Music (ICTM) World Conference, Thailand; Bangkok）、10 月（The 48th Annual Conference on South Asia：USA; Madison）、11 月には Raj Rai 准教授が企画に携わった国際シンポジウム（The 3rd Asian Consortium of South Asian Studies Conference, South Asia in Context, Singapore）、12 月（UVPA International Research Symposium - 2019 in Collaboration with ICTM Research Group - Harvard University, Sri Lanka; Colombo）、2020 年 2 月（Sounds, Bodied and Power: Politics and Poetics of Religious Sound, Singapore）にはシンガポール大学にて研究発表を行い、海外研究者とのネットワークの構築に努めた。

・2020（令和 2）年度

渡航期間：なし

2020 年度は、新型コロナウィルスの世界的な感染拡大の影響によって、予定していたイギリスとシンガポールでの在外研究と現地調査を断念し、国内での研究活動に従事した。これまでの調査データの整理・分析を進めながら、新型コロナ感染症の流行下においてインド系舞踊団や教

授機関にどのような影響がでているのか、Ann R. David 教授や Ravindran Gopalan 教授とオンライン・ミーティングを開催し、政府の財政支援や感染対策、教室運営や公演活動の変容などについてイギリス・インド・シンガポールの動向を把握し、情報を共有した。またシンガポールと日本におけるインド舞踊家たちにオンラインのインタビューを実施するとともに、ナショナル・アーツ・カウンシルの支援のもとで開催されたオンラインの芸能公演や個人が発信するオンラインのトーク・セッションを参与観察し、芸能公演および情報発信の新たなプラットホームの構築過程について考察した。

くわえて、2021 年 2 月（国立民族学博物館特別研究 「グローバル地域研究と地球社会の認知地図—わたしたちはいかに世界を共創するのか？」、大阪／オンライン）、3 月（Shiv Nadar University and Music Archive Monash University Online Symposium on Music and Social Affect: Building Genealogies of Music in Asia, India; Greater Noida／Online）に開かれた国内外のシンポジウムで研究成果の一部を発表し、参加者からコメントや助言を得た。

・2021（令和 3）年度
渡航期間：なし

前年度と同様、新型コロナウィルスの感染拡大が深刻化したことから、予定していたイギリスとシンガポールでの在外研究と現地調査を断念し、これまでの調査データを整理・分析し、論文執筆を進めた。一方、インド系シンガポール人の実演家たちにオンラインでの聞き取り調査を実施し、コロナ禍での舞台活動、教授方法やクラスの運営面、生徒たちへの影響などの実態を把握するとともに、政府の支援策についてかれらの見解を考察した。またシンガポールの中華系とマレー系の舞踊・演劇を専門とする若手研究者とオンラインによる意見交換会を実施し、とくに芸術文化政策が具体化する以前（独立前後）の上演芸術をとりまく状況について、各コミュニテイの動態や歴史的過程に関して情報共有した。

本研究の成果の一部をまとめた論文を 2 篇（三尾稔編『南アジアの新しい波 下巻』昭和堂、福岡まどか編『現代東南アジアにおけるラーマーヤナ演劇』めこん、所収）刊行した。

・2022（令和 4）年度
渡航期間：2022 年 11 月-12 月、2023 年 2 月-3 月（シンガポール）、2023 年 12 月-1 月（インド）

2022 年度は、新型コロナウィルスの感染状況に伴う海外渡航制限が緩和されたことから、文献研究にくわえてインドとシンガポールで補足調査を実施した。ポスト・コロナへと移行しつつあるシンガポール社会において、インド芸能祭のイベント動向と人びとの芸能の受容動向について参与観察と聞き取り調査を行った。

研究成果の一部を公開するため、7 月（The 46th International Council for Traditional Music (ICTM) World Conference, Portugal; Lisbon/Online）、2023 年 1 月（INDOWS International Symposium 2023 “Discovering the Indian Ocean World: “Gyres”, Indian Ocean and beyond”, 大阪）、3 月（大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立民族学博物館特別研究「グローバル地域研究と地球社会の認知地図—わたしたちはいかに世界を共創するのか？」、大阪）に開催された国際学会・シンポジウムで発表し、参加者との意見交換を行った。

さらに、2023 年 3 月には本研究の主題を議論する国際シンポジウム(Japan Society for the Promotion of Science (JSPS): Grants-in-Aid for Scientific Research Fund for the Promotion of Joint International Research ‘The Body Politics of Migration: Globalization of Indian Dance and Agencies’, “The Politics of Body and Sound in the Indian Diaspora: Globalization of Indian Performing Arts and Multiple Agencies”, 京都)を京都大学環インド洋研究センター（KINDOWS）と共同で開催した。Ann R. David 教授、研究協力者の Hari Krishnan に加え、若手研究者を国内外から招聘し、インド芸能のグローバル化を担う実演家個人のモビリティと創造性、当該地域のインド系コミュニティとの関係性や国際ネットワークについて議論を深め、地域間の差異や共通点などを明らかにした。

くわえて、本研究の成果の一部をまとめた英語論文（Fukuoka, Madoka ed, *Ramayana Theater in Contemporary Southeast Asia*, Jenny Stanford Publishing）を刊行した。

・2023（令和 5）年度
渡航期間：2023 年 8、10 月（タイ）、2024 年 3 月（シンガポール）

最終年の 2023 年度は、これまでの研究成果をまとめるために単著の原稿執筆を進めと共に、出版社と協議しながら来年度の科研費出版助成への申請準備に着手した。また 2023 年 8 月と 10 月にはタイのバンコクにて、インド芸能の新たな受容動向とヒンドゥー教の祝祭に関する現地調査を行い、2024 年 3 月にはシンガポールにてコロナ状況下における各種芸術機関の活動実態に関する補足調査を実施した。

本研究ではパンデミックの影響によってイギリスでの在外研究・調査を実現することはできなかったが、7 月には南アジア研究に関するヨーロッパの国際学会（2023 European Conference for South Asian Studies, Italy; Turin/Online）のパネルセッションで研究発表を行い、インド芸能を専門とするヨーロッパの研究者たちから多くの示唆に富んだコメントや比較対象としてヨーロッパの状況に関する知見を得ることができたほか、ヨーロッパの研究者とのつながりをもつこともでき、国際的なネットワークのさらなる拡がりを築くことができた。

４．研究成果

本研究は、研究期間の 6 年間（コロナ禍による延長 2 年間を含む）の間に、国際学会・シンポジウム）での研究発表 11 回、国内学会・シンポジウム・研究会での研究発表 3 回、その他 5 回にくわえ、国際ワークショップ 1 回と国際シンポジウム 1 回を開催した。これらの機会を通じて構築した国際的な研究ネットワークは、本研究はもとより今後の研究活動にも大変有益なものであり、さらなる共同研究の進展や国際学会でのパネルセッションの企画立案へとつながるものである。また、海外渡航時の受入れ先となった研究機関の共同研究者とは、滞在時に情報共有する機会を密にもち、コロナ禍ではオンラインによる意見交換を行うことで、本研究の主題に関する分析を進めることができた。こうした研究活動を通じて、本研究に関する成果発表の一部として英文図書（共著）1 篇、和文図書（共著）5 篇、書評やエッセイなどその他 7 篇を刊行したほか、単著の出版を目指して現在準備を進めている。

南アジアの音楽・舞踊を専門とする日本人研究者の多くは、これまで地域社会における事象を主に扱い、研究資料を現地や海外の文献に依拠する傍らでその成果を国内中心に公開してきた。また日本における舞踊・芸能研究の全体をみると、人類学や経済学と比べて学際的交流が進んでおらず、国際的な学術潮流から大きな遅れをとっている。本研究の成果とは、国際学会・シンポジウムでの積極的な研究発表を通じて国際的な研究ネットワークを構築しただけでなく、本研究をグローバルな学術ネットワークのなかに位置づけて議論を展開できたことである。また関連分野で優れた研究業績をもつ共同研究者や若手外国人研究者を日本に招聘し、国際ワークショップや国際シンポジウムを開催し、その議論を広く日本の音楽・舞踊研究に携わる研究者たちに公開できたことも大きな成果の一つといえる。

一方、インド人ディアスポラに関する従来の研究は、ホスト社会での動向に焦点が当てられてきたのに対して、本研究は、インドはもとより欧米諸国と東南アジアのメガシティを往来するインド系実演家たちの実践活動の動態と彼らのネットワークをも視野にいれて研究を進めていった。それは、日印といった従来の二国間の研究協力に偏重しがちだったアプローチから脱却し、欧米諸国や東南アジアの研究機関をも含めた国際的な学術ネットワークにおける日本のプレゼンスを高めることに少なからず貢献し、かつアジアの研究機関間のネットワークの発展にも寄与することができた。

本研究は、西洋発の文化が世界中に拡大するという従来のグローバリゼーション・モデルとは異なる文化の環流現象に着目して、インドとインド以外から発するインド芸能の事例から考察し、共同研究者との協働のもとでインド・欧米諸国・東南アジアにおけるインド系移民の文化的動態をマルチ・サイト民族誌の手法から明らかにし、インド人実演家たちの多国間での活動実態を有機的かつ全体論的に捉えたことに意義がある。そこでは、インド芸能のグローバルな受容動向について、移民社会や実践者たちを集団として一括りにする従来の研究とは異なり、ホスト社会で暮らすインド系移民コミュニティ内の多様なエージェンシーがいかに芸能を実践・受容しているのか、伝播層や作品の創作過程から分析し、またホスト社会の文化政策やグローバルな政治・市場との結びつきをふまえながら、インド古典舞踊の継承を通じたコミュニティの再編や新しい協同関係の実態を浮かび上がらせることが可能となった。それは、これまでの移民研究に不足する移民者たち個人の経験やその意味世界、さらにはインド舞踊の継承・実践という身体性との結びつきから明らかにする新たな手法を用いたことで、競合する実演家たちとのポリティクスを浮かび上がらせ、地域研究や人類学の領域にも新たな方法論を提唱することができたはずである。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計4件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　2件）

１．著者名 竹村嘉晃	４．巻 29
２．論文標題 インド芸能をめぐるコミュニケーションの変容ーコロナ状況下の シンガポールを事例に	５．発行年 2023年
３．雑誌名 FIELDPLUS	６．最初と最後の頁 6-7
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 竹村嘉晃	４．巻 32号
２．論文標題 書評論文・古賀万由里著『南インドの儀礼的芸能をめぐる民族誌――生成する神話と儀礼』	５．発行年 2021年
３．雑誌名 『南アジア研究』	６．最初と最後の頁 100-106
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11384/jjasas.2020.100	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 竹村嘉晃	４．巻 17号
２．論文標題 2-2. 国際学会情報（舞踊学・演劇学・パフォーマンス研究）2 The Natya Kala Conference (India)	５．発行年 2021年
３．雑誌名 『舞踊学会ニュースレター』	６．最初と最後の頁 7
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 竹村嘉晃	４．巻 42号
２．論文標題 書評 塚田健一著『エイサー物語――移動する人、伝播する芸能』	５．発行年 2020年
３．雑誌名 舞踊學	６．最初と最後の頁 77-79
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計21件（うち招待講演　3件／うち国際学会　9件）

１．発表者名 Yoshiaki Takemura
２．発表標題 Female Peformers Mobility and its Politics in SIngapore in the 20th century: Propagation Layers, the States and Multiculturalism
３．学会等名 2023 European Conference for South Aisan Studies (ECSAS)（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 竹村嘉晃
２．発表標題 オンラインで学ぶ、語る、共有する―コロナ禍のシンガポールにおけるインド系芸能団体の活動と生徒とのかかわりあい
３．学会等名 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所・共同研究「新型コロナ感染拡大下における芸能に関する学際的研究」2022年度第1回研究会
４．発表年 2022年

１．発表者名 Yoshiaki Takemura
２．発表標題 Performing Arts Practices and Experiences during the COVID-19 pandemic: Indian Diaspora, Technology, and Engagement in Singapore
３．学会等名 The 46th International Council for Traditional Music (ICTM) World Conference（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 竹村嘉晃
２．発表標題 多文化主義のもとで育まれたシンガポールのインド舞踊
３．学会等名 東京外国語大学オープンアカデミー〈東南アジアの音楽と芸能を知ろう〉
４．発表年 2022年

１．発表者名 Yoshiaki Takemura
２．発表標題 Two Currents in Ramayana: Ramayana Productions from Singapore and its Gyre to the Global Indian World
３．学会等名 INDOWS International Symposium 2023 "Discovering the Indian Ocean World: “Gyres”, Indian Ocean and beyond”（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 Yoshiaki Takemura
２．発表標題 Questioning from Underfoot and Across the Shore: Re-evaluating and Re-contextualizing the Hereditary Dancing Community on Classical Dance in South India
３．学会等名 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国立民族学博物館 特別研究「グローバル地域研究と地球社会の認知地図―わたしたちはいかに世界を共創するのか？」
４．発表年 2023年

１．発表者名 Yoshiaki Takemura
２．発表標題 Santha Bhaskar’s Trail: Creating New Spaces and Representations in Singapore
３．学会等名 The Politics of Body and Sound in the Indian Diaspora: Globalization of Indian Performing Arts and Multiple Agencies
４．発表年 2023年

１．発表者名 竹村嘉晃
２．発表標題 多民族国家シンガポールにおけるインド舞踊の発展
３．学会等名 東京外国語大学オープンアカデミー2021年度教養講座『東南アジアの音楽と芸能を知ろう 島嶼部の舞踊編』、2021年6月4日（東京外国語大学オープンアカデミー・オンライン）（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 竹村嘉晃
２．発表標題 シンガポールに渡ったインドの太鼓――儀礼から舞台まで
３．学会等名 東京外国語大学オープンアカデミー2021年度教養講座『東南アジアの音楽と芸能を知ろう 2021年秋編』（東京外国語大学オープンアカデミー・オンライン）（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 竹村嘉晃
２．発表標題 シンガポールにおける「ナショナルな」舞踊の生成――〈ピープルズ・バラエティー・ ショー〉とインド人舞踊家の関わりを中心に
３．学会等名 みんぱく特別研究「グローバル地域研究 と地球社会の認知地図―わたしたちはいかに世界を共創するのか？」第6回研究会／ 南 アジア地域研究・現代中東地域研究国立民族学博物館拠点連携研究会（オンライン）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Yoshiaki Takemura
２．発表標題 Challenging New Space and Represented Sound: Emerging Newly Indian Drum Ensemble in Singapore
３．学会等名 Shiv Nadar University and Music Archive Monash University Online Symposium on Music and Social Affect: Building Genealogies of Music in Asia, Shiv Nadar University (Online)
４．発表年 2020年

１．発表者名 竹村嘉晃
２．発表標題 The Decline of Interests and the New Emerging Agencies: Bharatanatyam and Sri Lankan Tamils in Singapore
３．学会等名 東洋音楽学会西日本支部第283回定例研究会/科研費基盤(C)「スリランカ系タミル人によるインド舞踊の発展と再々構築化に関する全体関連的研究」合同開催
４．発表年 2019年

１．発表者名 竹村嘉晃
２．発表標題 インド芸能から考える舞踊民族誌の視角
３．学会等名 国立民族学博物館共同研究「音楽する身体間の相互作用を捉える――ミュージッキングの学際的研究」（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Yoshiaki Takemura
２．発表標題 Identification of Traditional Values in the Performance of the Ramayana amongst the Indian Diaspora in Singapore
３．学会等名 The 45th International Council for Traditional Music (ICTM) World Conference（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Yoshiaki Takemura
２．発表標題 ‘The Arts Power on!’: the Development of Indian Performing Arts and the Germ of Cultural Policy in the Early 1960s in Singapore
３．学会等名 The 48th Annual Conference on South Asia（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Yoshiaki Takemura
２．発表標題 Decline in Interest or Emerging New Platform Evolving?: the Transformation of Bharatanatyam among the Indian Diaspora Communities in Singapor
３．学会等名 The 3rd Asian Consortium of South Asian Studies Conference, South Asia in Context: Genealogies and Trajectories（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Yoshiaki Takemura
２．発表標題 Tamilness or Global Indianess?: Evolution of Bharatanatyam and Sri Lankan Tamil Diaspora in Singapore
３．学会等名 UVPA International Research Symposium - 2019 in Collaboration with ICTM Research Group - Harvard University（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 竹村嘉晃
２．発表標題 インド芸能事始め：グローバル化の中で隆盛するインド音楽・舞踊文化
３．学会等名 川西市民族学講座
４．発表年 2018年

１．発表者名 Yoshiaki Takemura
２．発表標題 Performing Ramayana: Contact Zone, Singapore Indian Dancers and their Reflexivity
３．学会等名 The 5th Symposium of the ICTM Study Group On Performing Arts of Southeast Asia（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 竹村嘉晃
２．発表標題 シンガポールにおけるナショナルなインド舞踊の発展；芸術文化政策の黎明期を中心に
３．学会等名 日本南アジア学会第 31 回全国大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 Yoshiaki Takemura
２．発表標題 ‘The Arts Power on!’: the Development of Indian Performing Arts and the Germ of Cultural Policy in the Early 1960’s in Singapore,
３．学会等名 Jointly organised Workshop by South Asian Studies Programme, NUS and Japan Society for the Promotion of Science: Rethinking Development: Networks, Brokers and Devotion（国際学会）
４．発表年 2019年

〔図書〕　計10件

１．著者名 Fukuoka, Madoka ed	４．発行年 2022年
２．出版社 Jenny Stanford Publishing	５．総ページ数 258
３．書名 Ramayana Theater in Contemporary Southeast Asia （担当執筆：Chapter 5 "Ramayana in the Performing Arts: Connection with the Government and Local/National/Global Indian Identity in Singapore", pp. 115-142）	

１．著者名 栗本英世・村橋勲・伊東未来・中川理編	４．発行年 2022年
２．出版社 大阪大学出版会	５．総ページ数 312
３．書名 『かかわりあいの人類学』（担当執筆：第12章「「体得しない」芸能研究者がフィールドでかかわったこと」、247-264頁）	

１．著者名 三尾稔編	４．発行年 2022年
２．出版社 昭和堂	５．総ページ数 280
３．書名 『南アジアの新しい波 下巻』（担当執筆：第4章「シンガポールで開花したインドの舞踊――多文化主義のもとで生まれた新たな空間と表象」、105-130頁）	

1．著者名 福岡まどか編	4．発行年 2022年
2．出版社 めこん	5．総ページ数 248
3．書名 『現代東南アジアにおけるラーマーヤナ演劇』（担当執筆：第5章「インド人ディアスポラとラーマーヤナ――シンガポールにおけるアートマネージメントとローカル／ナショナル／グローバルな表象」、122-151頁））	

1．著者名 田村慶子編	4．発行年 2021年
2．出版社 明石書店	5．総ページ数 344
3．書名 『シンガポールを知るための65章【第5版】』（担当執筆：第23章「インド系シンガポール人――多民族国家のなかの多様なインド系社会」、120-124頁）	

1．著者名 宮本久義・小西公大編	4．発行年 2021年
2．出版社 明石書店	5．総ページ数 384
3．書名 『インドを旅する55章』（担当執筆：第45章「南インドの芸能と祭祀――叙事詩と神霊の異界に誘われて」、302-306頁）	

1．著者名 石坂晋哉、宇根義己、舟橋健太	4．発行年 2020年
2．出版社 昭和堂	5．総ページ数 296
3．書名 ようこそ南アジア世界へ（担当執筆：「南アジアをあるく⑩　スポーツ――スポーツ文化と社会の発展」、200頁）	

1．著者名 石坂晋哉、宇根義己、舟橋健太	4．発行年 2020年
2．出版社 昭和堂	5．総ページ数 296
3．書名 ようこそ南アジア世界へ（担当執筆：「南アジアをあるく⑬　芸能――グローバルに拡散する芸能文化」、266頁）	

1．著者名 松川 恭子、寺田 吉孝	4．発行年 2021年
2．出版社 青弓社	5．総ページ数 368
3．書名 世界を環流する〈インド〉（担当執筆：「インド舞踊のグローバル化の萌芽――ある舞踊家のライフヒストリーをもとに」、264-304頁）	

1．著者名 信田　敏宏	4．発行年 2019年
2．出版社 丸善出版	5．総ページ数 832
3．書名 東南アジア文化事典（「東南アジアのインド芸能」担当執筆）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
主たる渡航先の主たる海外共同研究者	ライ　ラジェーシュ博士 (Dr. Rai Rajesh)	シンガポール大学・人文社会科学学部・准教授	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
主たる渡航先の主たる海外共同研究者	ラヴィンドラン　ゴーパラン博士 (Dr. Ravindran Gopalan)	マドラス大学・ジャーナリズム＆コミュケーション学部・教授	

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
その他の研究協力者	デヴィット　アン博士 (Dr. David Ann R.)	ローハンプトン大学・舞踊学部・教授	
その他の研究協力者	クリシュナン　ハリ博士 (Dr. Krishnan Hari)	ウェスリアン大学・舞踊学会・教授	
その他の研究協力者	寺田　吉孝博士 (Dr. Terada Yoshiataka) (00290924)	国立民族学博物館・その他部局等・名誉教授 (64401)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計2件

国際研究集会 JSPS & KINDOWS organized , The Politics of Body and Sound in the Indian Diaspora: Globalization of Indian Performing Arts and Multiple Agencies	開催年 2023年～2023年
国際研究集会 東洋音楽学会西日本支部第283回定例研究会/科研費基盤(C)「スリランカ系タミル人によるインド舞踊の発展と再々構築化に関する全体関連的研究」合同開催	開催年 2019年～2019年

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関

シンガポール	シンガポール国立大学			
インド	マドラス大学			